解決！！画面でわかる簡単ガイド

Arcserve® Backup r16

仮想環境データ保護（VMware ESX）

～ 仮想マシン"丸ごと"データ保護環境の設定手順 ～

2012 年 12 月

arcserve®

目次

はじめに.....3
バックアップ環境の構築.....4
設定した内容の確認.....14
まとめ.....15

改訂履歴

2012/12　初版リリース
2014/10　社名変更

このドキュメントに含まれる特定の情報は、Arcserve 製品の全体的な方向性に関する概略を説明しています。このドキュメントは、(i)既存または将来作成される Arcserve のソフトウェア製品に関するライセンス契約書またはサービス契約書において、Arcserve またはライセンシーの権利および / または義務に影響を与えたり、(ii)Arcserve のソフトウェア製品のいかなる製品ドキュメントや仕様書を修正したりするためのものではありません。このドキュメントに記述された機能の開発、リリース、時期についての決定権は、Arcserve のみが有します。

Copyright ©2014 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved. Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、米国またはその他の国、あるいはその両方における Microsoft Corporation の商標です。本書で参照するその他すべての商標、商号、サービスマーク、およびロゴは、それぞれの会社に属します。

本書は情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserve は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証(商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます(ただし、これに限定されません))も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など(ただし、これに限定されません)、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserve がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

はじめに

グリーン IT やサーバの設置スペース、運用コストの削減や既存業務システムの移行など、仮想化システムはテスト環境のみならず、本番環境でも数多く導入されてきています。今や仮想化システムはすでに本番環境には欠かせない構成であり、仮想化環境ならではの容易なサーバ追加や導入コストの削減、運用効率だけでなく、物理環境同様の安定稼動や事業継続などの付加価値の高いサービスの維持も求められています。こうした中で仮想化システムのバックアップも、より簡単に、より効率的にデータを保護する需要が高まっています。

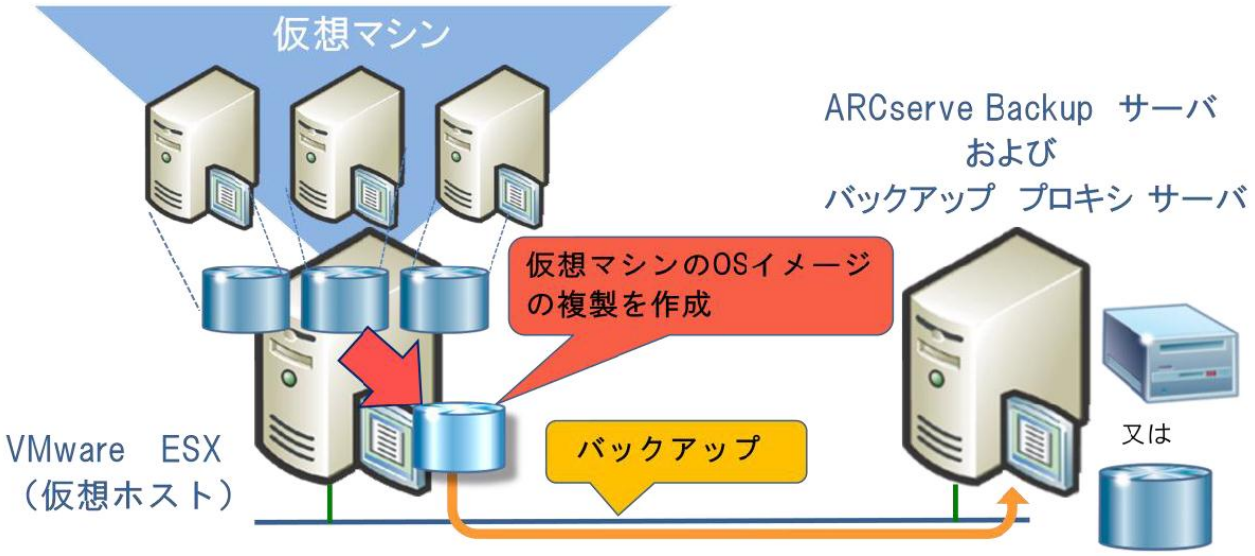
このガイドは、仮想化システム上に構築される仮想マシン（ゲスト OS）のデータを保護するために必要な Arcserve Backup r16 for Windows (以降 Arcserve Backup) の設定について、画面イメージとともに1つずつ手順を説明します。このガイドの手順を行うと、仮想マシンを丸ごと簡単にバックアップまたは復旧できる環境が構築できます。

VMware ESX 環境のバックアップ構成

以下、VMware ESX 単体の環境を保護するために、最低限必要な構成の例です。
このガイドでは、Arcserve Backup サーバとバックアップ プロキシ サーバ（※）を同じマシン上に導入しています。

※ バックアップ プロキシ サーバ

VMware ESX 上で仮想マシンの OS イメージの複製を作成し、Arcserve Backup サーバにこの複製を転送する時に使用する中継サーバです。 Arcserve Backup サーバと兼用することも可能です。

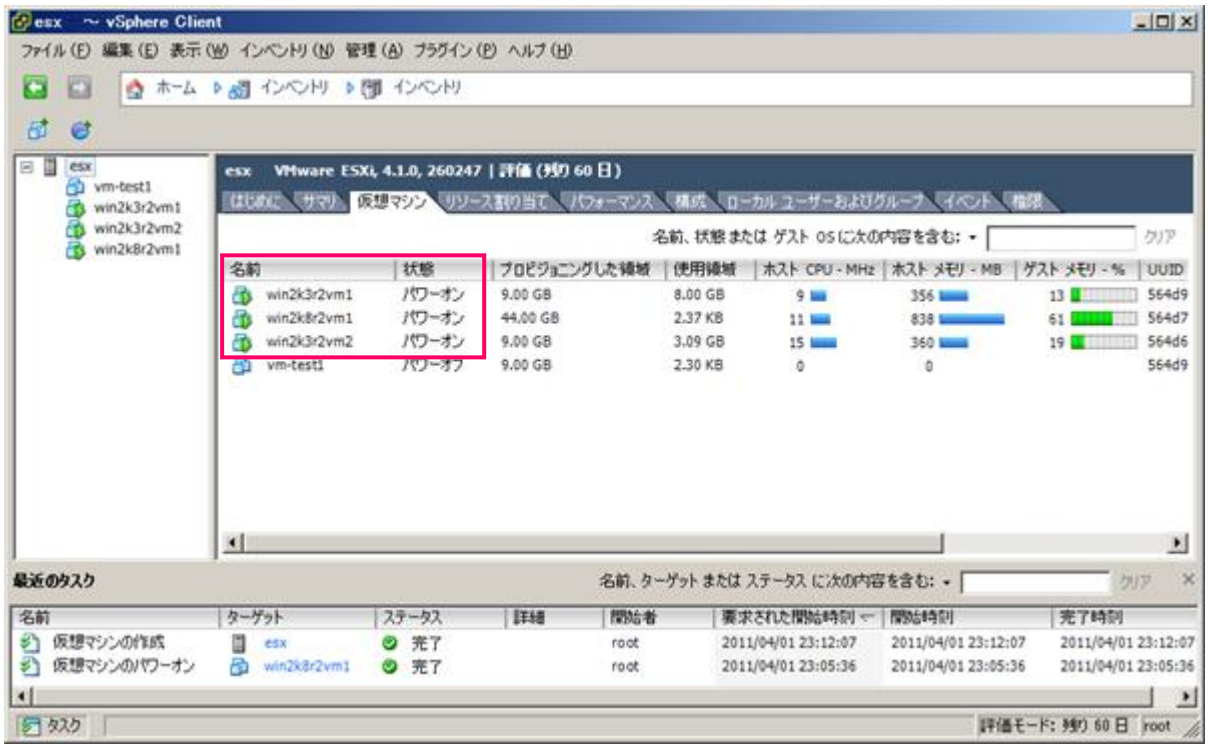


バックアップ環境の構築

VMware ESX 環境の仮想マシンを保護するには、Agent for Virtual Machines をバックアップ プロキシ サーバに導入します。このガイドでは、バックアップ プロキシ サーバに Arcserve Backup サーバを構築しているため、Agent for Virtual Machines のインストールは Arcserve Backup サーバで実施します。

インストール前の確認事項

インストールを実行する前に、VMware 管理クライアントからバックアップ対象の仮想マシンが”パワーオン”状態であることを確認します。

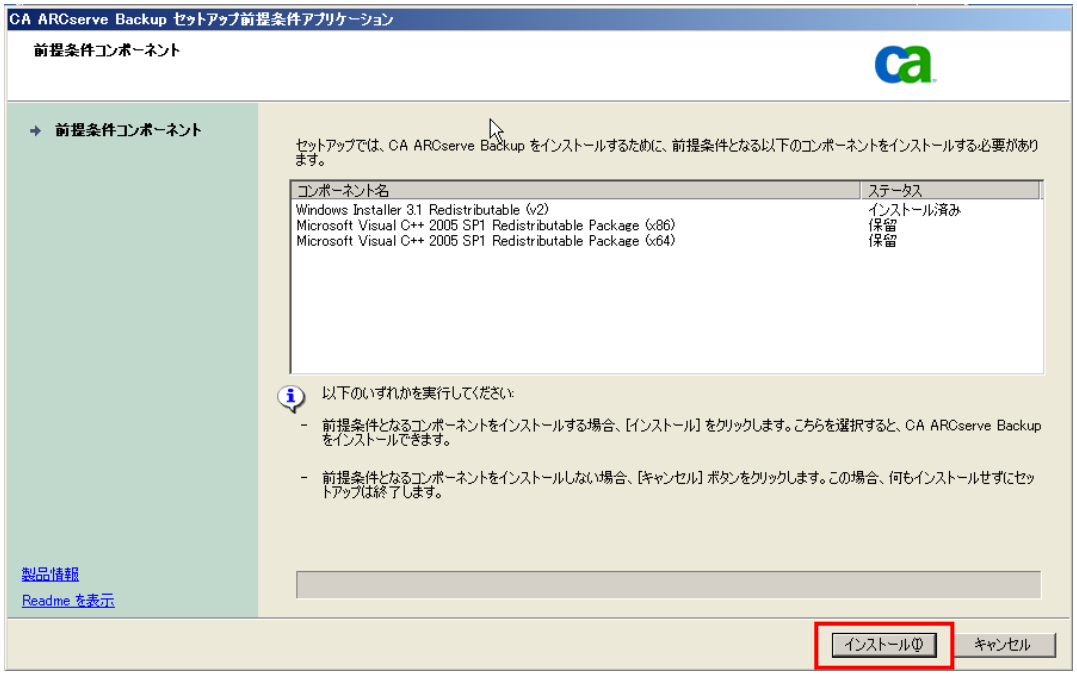


Agent for Virtual Machines のインストール

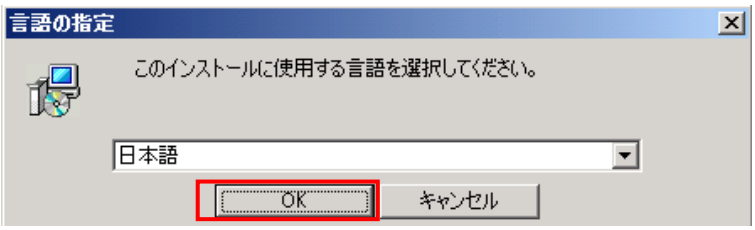
Arcserve Backup r16 for Windows のインストールメディアを Arcserve Backup サーバの DVD ドライブに入れると、自動的に以下の画面が表示されます。表示されない場合は、DVD ドライブ内の Setup.exe (DVD ドライブ:¥Setup.exe) をクリックします。

1. Arcserve Backup r16 のインストーラ画面で、[インストール]をクリックします。

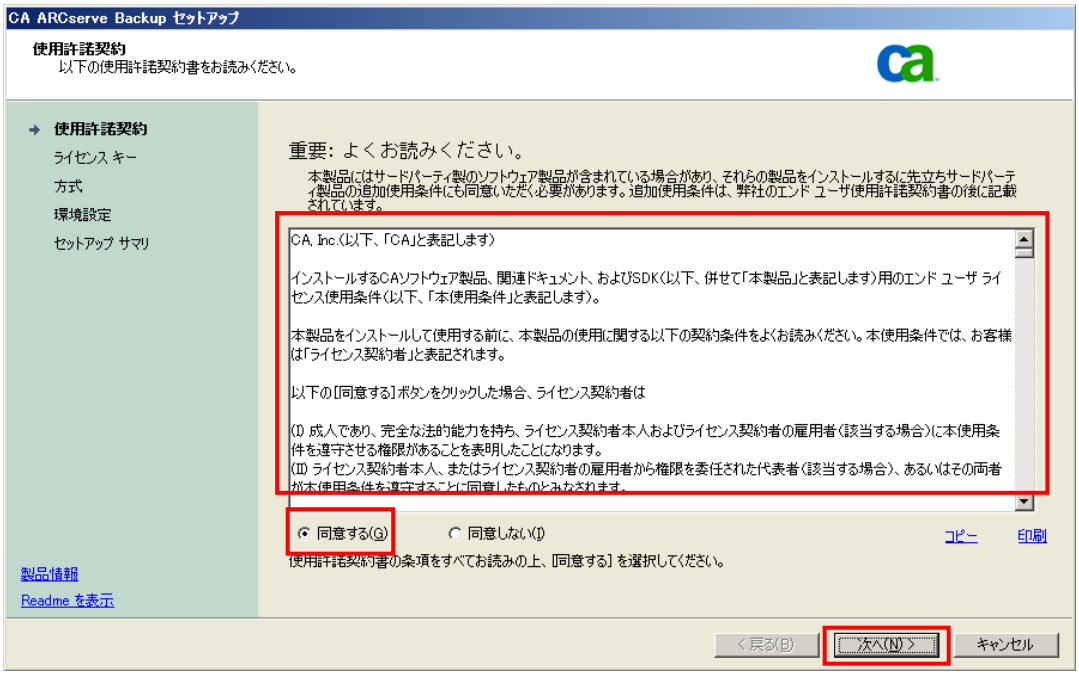
2. [前提条件コンポーネント]の画面で、[インストール]をクリックします。



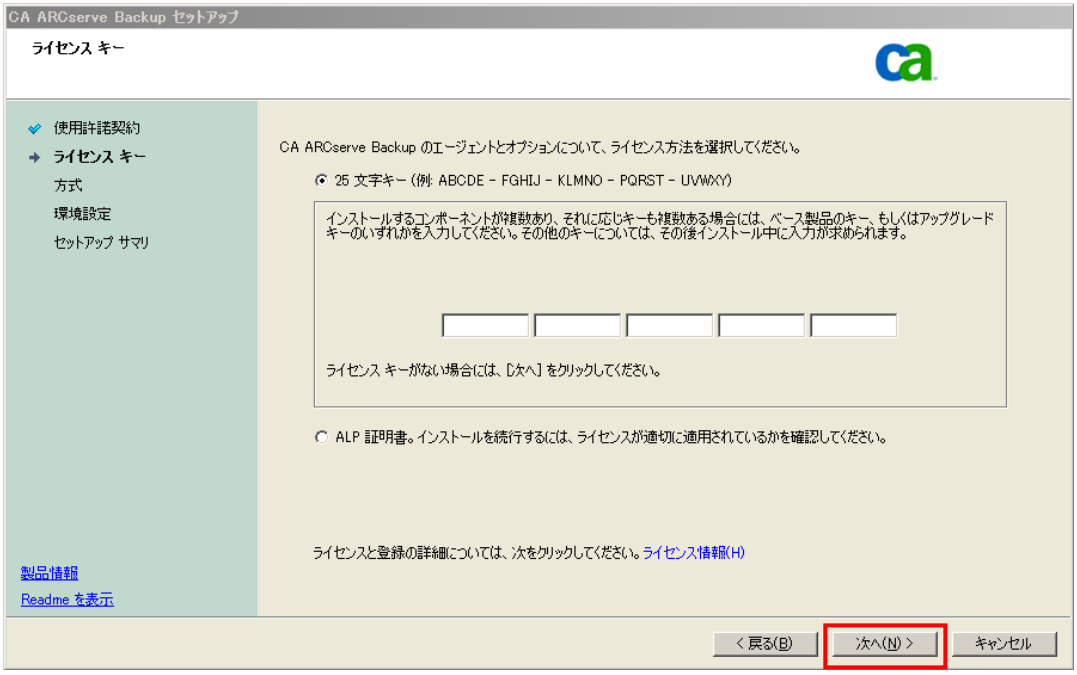
3. [言語の指定]画面で、「日本語」が選択されていることを確認し、[OK]をクリックします。



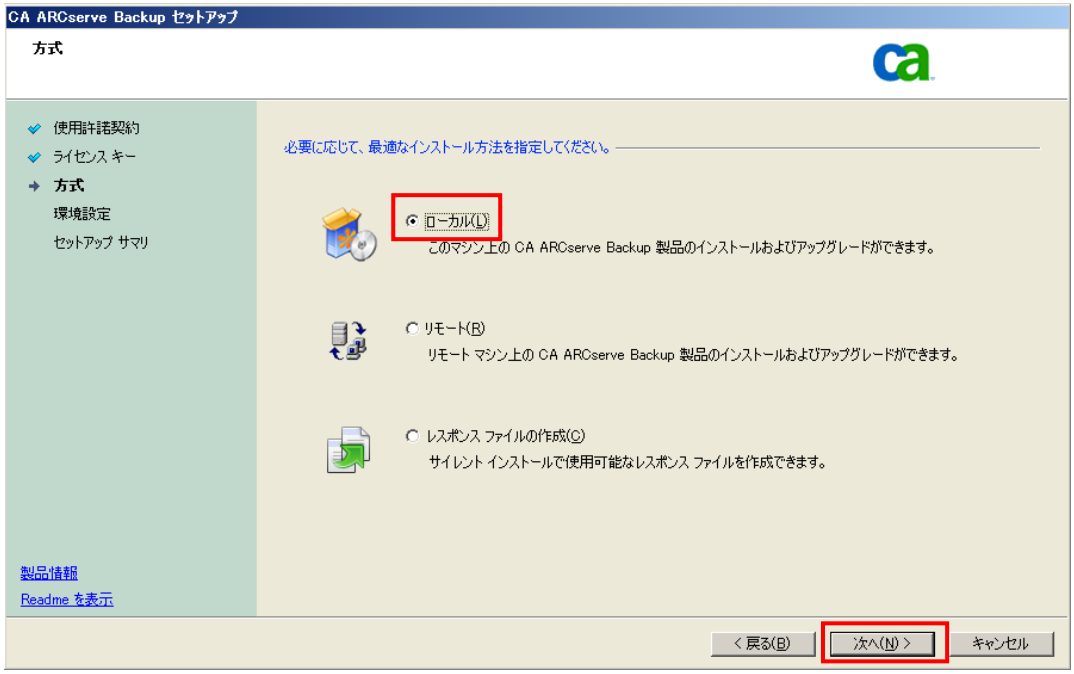
4. [使用許諾契約]画面で、使用許諾契約を最後まで読んで同意する場合は[同意する]を選択し、[次へ]をクリックします。 ※ [同意する]をチェックするには、一番下までスクロールする必要があります。



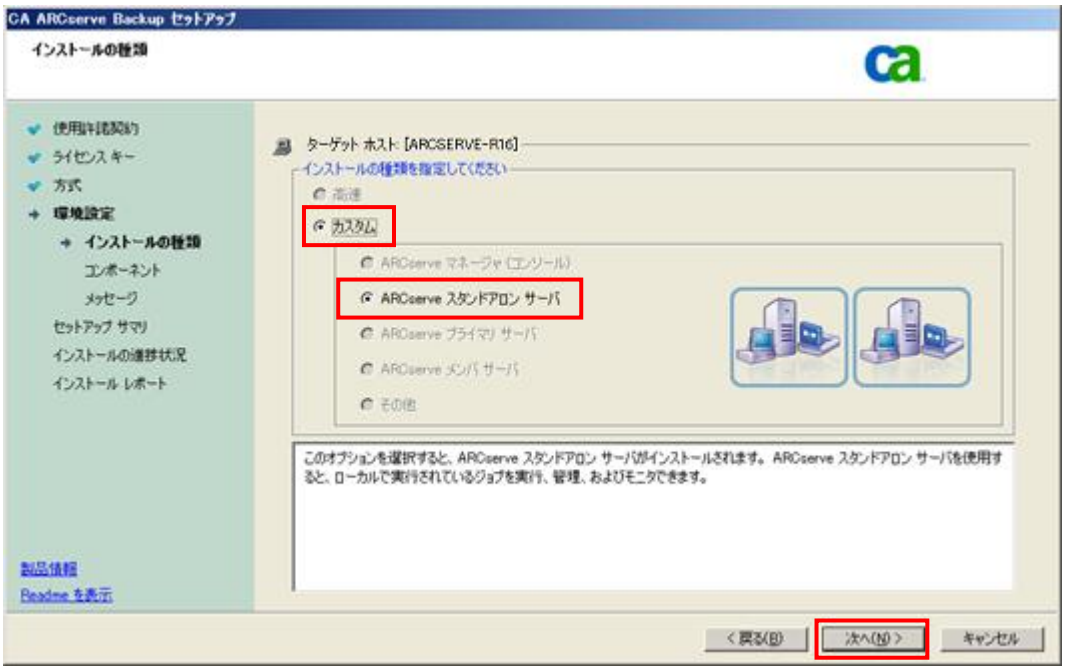
5. [ライセンス キー]画面で、そのまま[次へ]をクリックします。



6. [方式]画面で、[ローカル]を選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。



7. [インストールの種類]画面で[カスタム] 、[ARCserve スタンドアロン サーバ]が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

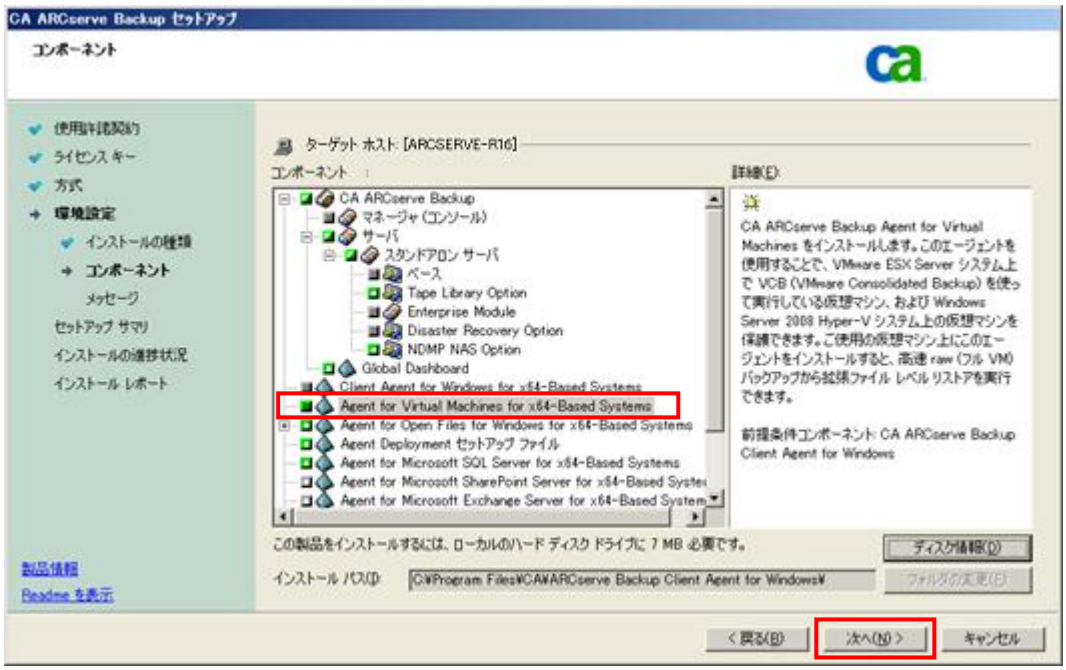


8. [コンポーネント]画面で、導入する製品として以下のコンポーネントを選択する、または既に選択されていることを確認してから、[次へ]をクリックします。

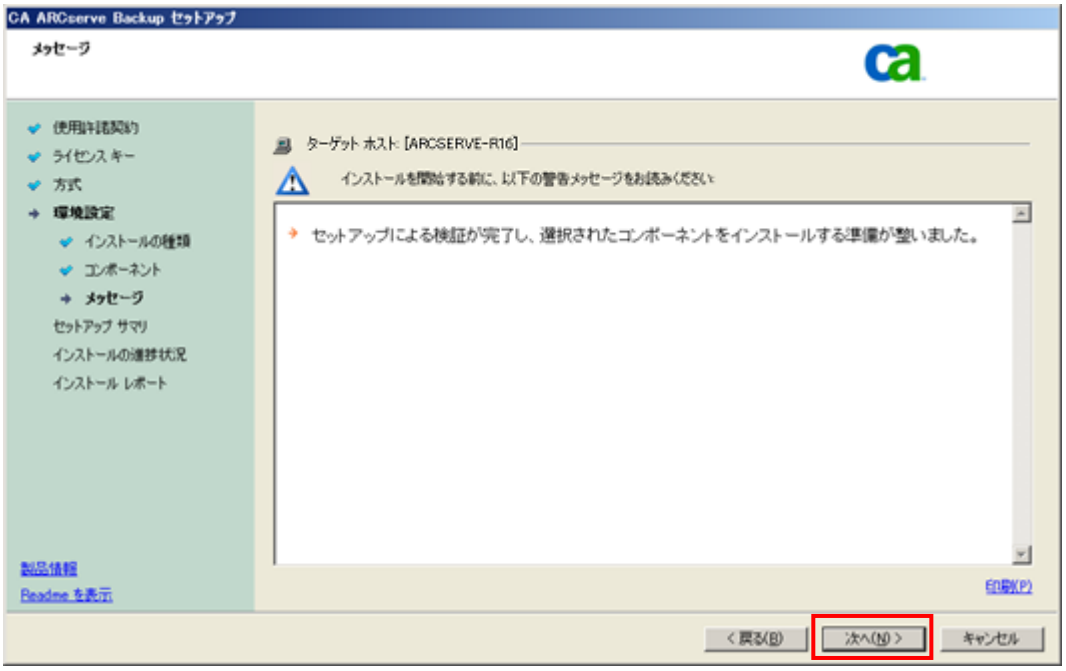
<u>コンポーネント名</u>

x86 の場合: **Agent for Virtual Machines**

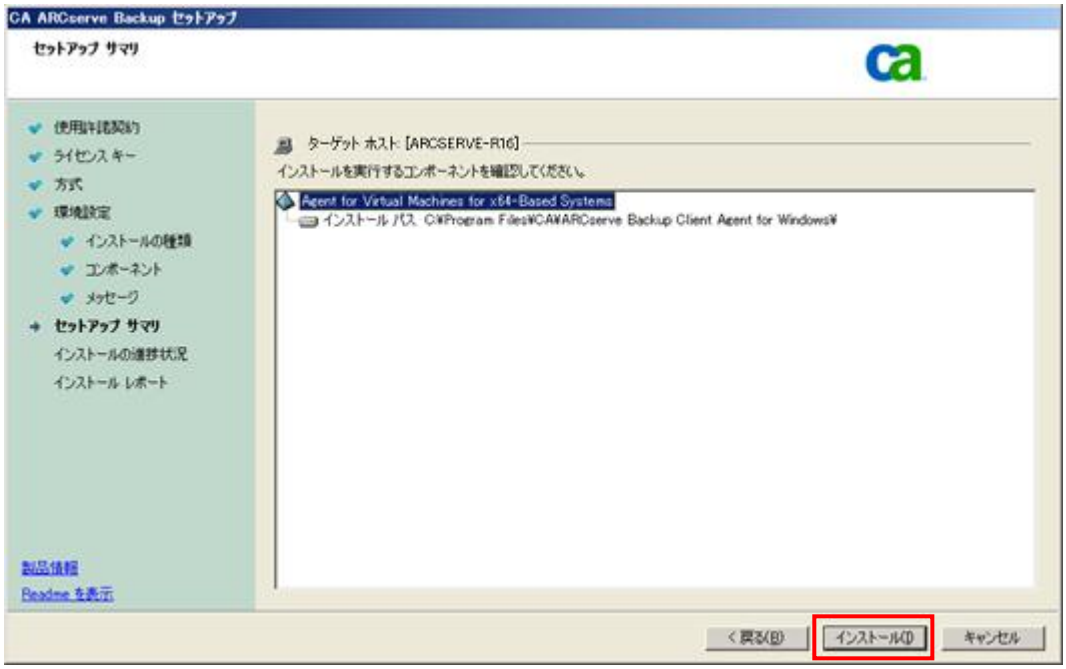
x64 の場合: **Agent for Virtual Machines for x64-Based System**



9. [メッセージ]画面の内容を確認してから[次へ]をクリックします。

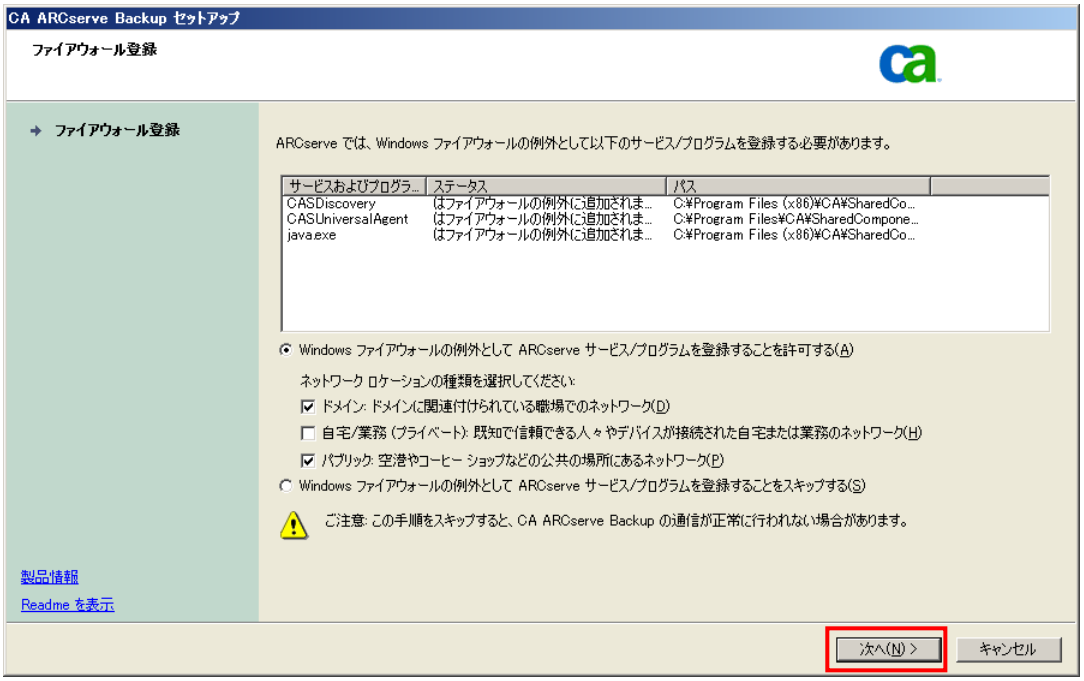


10. [セットアップ サマリ]画面で、インストールするコンポーネントを確認してから[インストール]をクリックします。

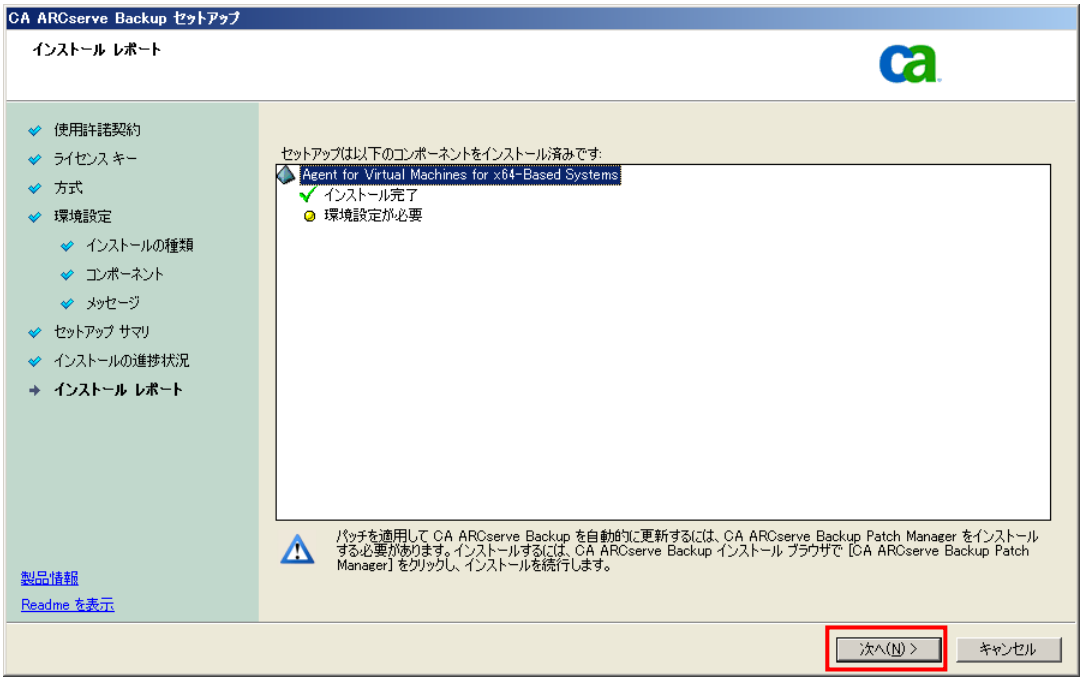


11. インストールが実行されます。

12. [ファイアウォール登録]画面で、選択された内容を変更せずそのまま[次へ]をクリックします。



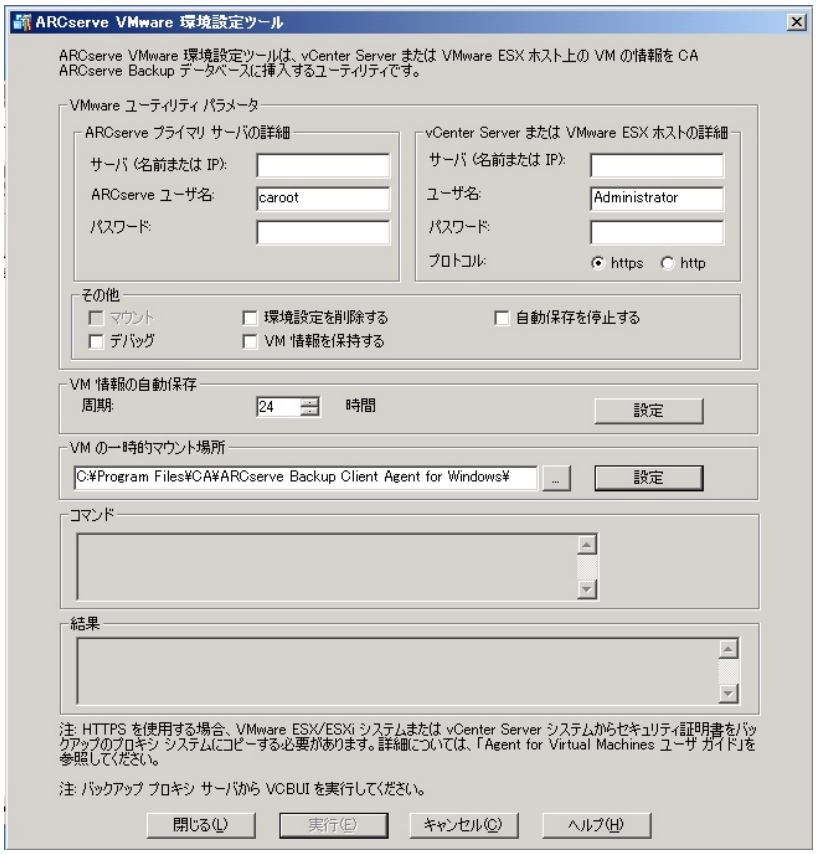
13. [インストール レポート]画面で、インストールが完了したことを確認して[次へ]をクリックします。



Arcserve Backup サーバへの仮想マシンを登録

14. [ARCserve Backup Agent 管理]の画面を閉じると、[ARCserve VMware 環境設定ツール]画面が自動的に表示されます。

    この環境設定ツールを使って Arcserve Backup サーバに仮想マシンを登録します。



15. [VMware ユーティリティ パラメータ]内の[ARCserve プライマリ サーバの詳細](図中"①"参照)および[vCenter Server または VMware ESX ホストの詳細](図中"②"参照)の各項目に、それぞれ以下の情報を入力し、[実行](図中"③"参照)をクリックします。

・[ARCserve プライマリ サーバの詳細]

サーバ (名前または IP): Arcserve Backup サーバ名

Arcserve ユーザ名: 入力済みの"caroot"をそのまま使用

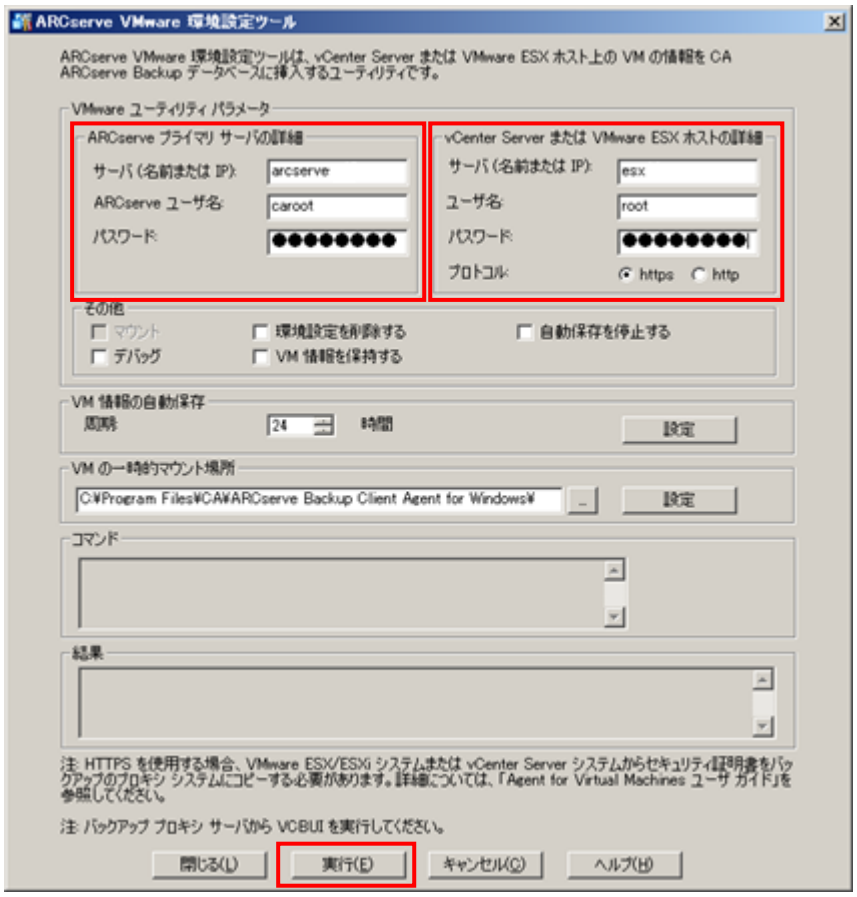
パスワード: Arcserve Backup 導入時に指定した "caroot"のパスワード

・[vCenter Server または VMware ESX ホストの詳細]

サーバ (名前または IP): VMware vCenter Server もしくは VMware ESX 名
(このガイドでは VMware ESX 名を入力します。VMware vCenter Server を利用している場合は、VMware vCenter Server 名を入力)

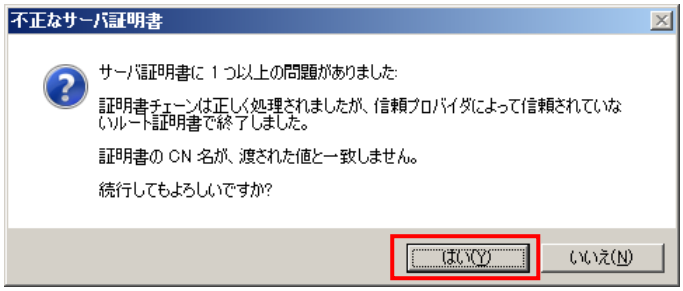
ユーザ名: VMware ESX の管理者権限を持つユーザ名
(このガイドでは"root"を入力)

パスワード: 指定したユーザのパスワード

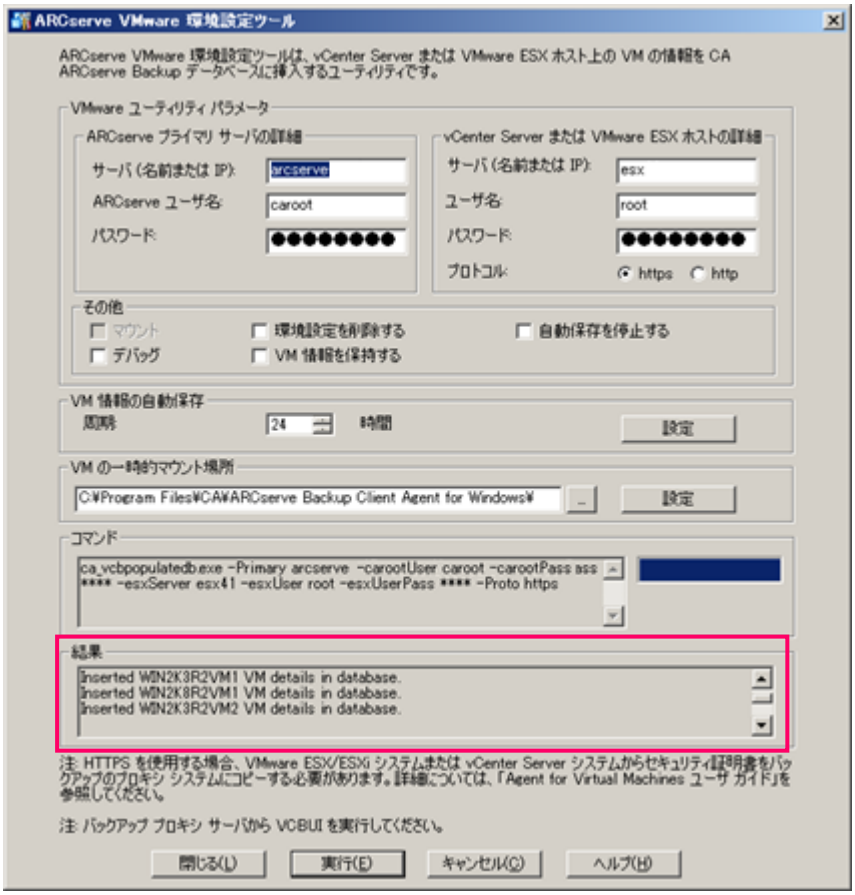


①

16. VMware ESX にアクセスして仮想マシンの情報を取得する際に、デフォルトでセキュリティプロトコル（”https”）を使用します。この時以下のメッセージが表示されますが、そのまま[はい]をクリックして、そのまま続行します。(このメッセージは英語で表示される場合もあります)

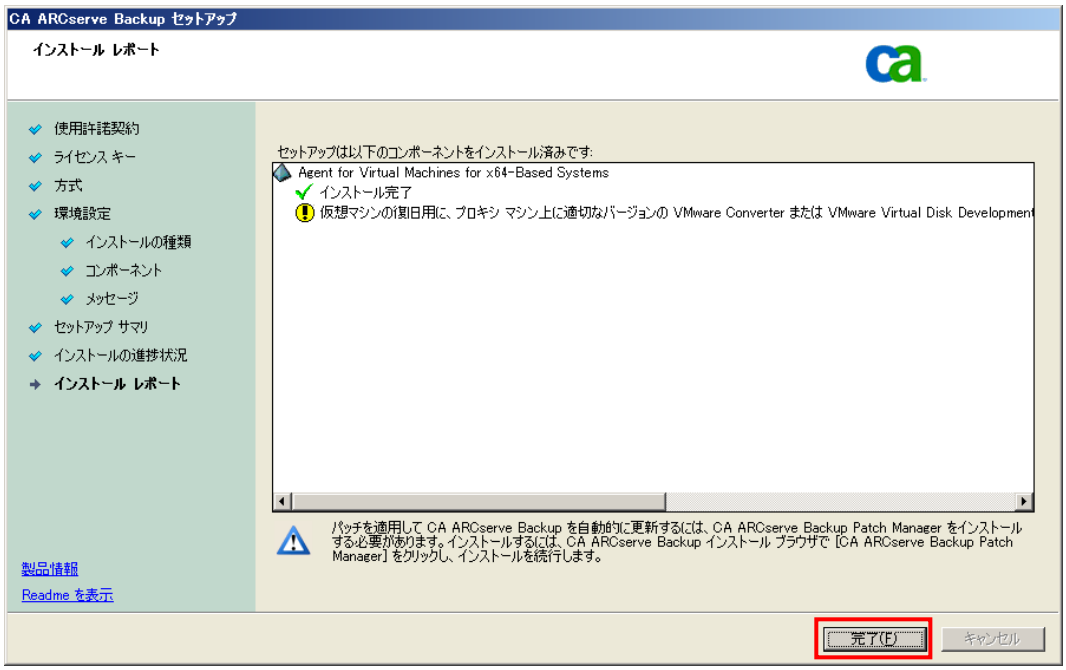


17. Arcserve Backup サーバへ仮想マシンの登録が終わると、[結果]の中に検出された仮想マシン名が表示されます。以下の図の例では、3 つの仮想マシンが検出されていることを表しています。（メッセージは英語で表示されます）



18. 仮想マシンが検出された後、[閉じる]をクリックして画面を閉じます。

19. [完了]をクリックして、導入と設定作業を終了します。



設定した内容の確認

Arcserve Backup の管理コンソールである、Arcserve Backup マネージャを起動し、バックアップ マネージャ画面の[ソース]タブにある[VMware システム]下に登録したサーバを確認します。

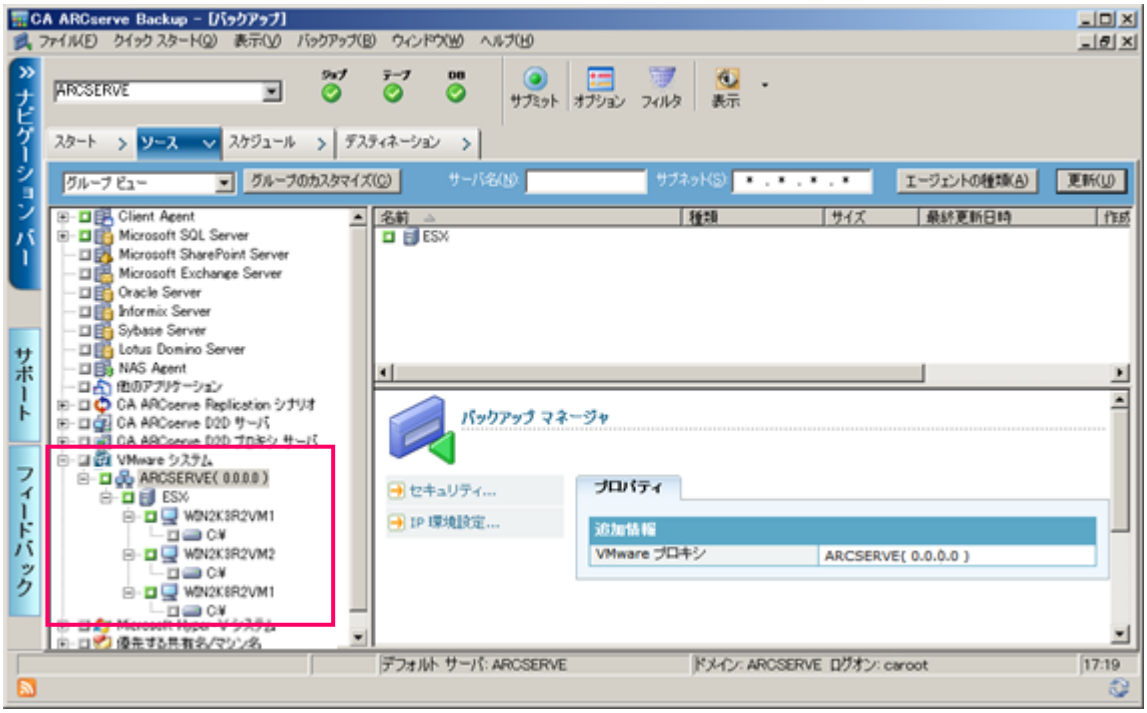
＜以下の図の例＞　バックアップ プロキシ サーバ:　ARCSERVE

VMware ESX:　ESX

仮想マシン:　WIN2K3R2VM1

WIN2K3R2VM2

WIN2K8R2VM1



まとめ

このガイドで紹介した手順を実施すると、VMware ESX 環境上の仮想マシンを簡単に保護するための製品(Agent for Virtual Machines)導入と設定ができるようになります。必要な設定項目は、インストール中に画面が自動表示されるため、設定の漏れがなく、簡単に仮想マシンをバックアップするための環境が構築できます。
仮想マシンのデータ保護環境が整ったら、次は仮想マシンを丸ごとバックアップするための手順書、「解決！！画面でわかる簡単ガイド: 仮想環境データ保護 (VMware ESX) ～ 仮想マシン"丸ごと"バックアップ手順」にて、いかに簡単にバックアップできるかを実感してみてください。

製品情報

Arcserve シリーズ 総合情報サイト
http://arcserve.com/jp/
テクニカルサポート
http://www.arcserve.com/jp/support.aspx
テクニカルサポート: Arcserve Backup r16 for Windows:製品マニュアル
http://www.arcserve.com/jp/lpg/jpsupport/manual.aspx#a01
テクニカルサポート: Arcserve Backup r16 for Windows:動作要件
http://www.arcserve.com/jp/lpg/jpsupport/sysreq/bab16win.aspx
無償トライアル申し込みサイト
https://www.arcserve.com/jp/free-backup-software-trials.aspx
ご購入の方法
ご購入方法の詳細は Arcserve 販売パートナーへお問い合わせください。
http://www.arcserve.com/jp/lpg/partners-list.aspx

補足事項

今回ご紹介した環境は、ヴイエムウェア社が提供する、Virtual Disk Development Kit (VDDK) という機能を使用しています。この機能を利用するには、バックアップ プロキシ サーバ上に予めヴイエムウェア社の製品を導入する必要があります。VDDK を使用した仮想マシンのバックアップの詳細は、製品マニュアル "Agent for Virtual Machines ユーザ ガイド" を参照ください。また Arcserve Backup がサポートする VMware ESX/ESXi と VDDK の組み合わせは、上記" Arcserve Backup r16 for Windows:動作要件"を参照ください。